

言語発達障害学

[講義] 第3学年 後期 必修 1単位

《担当者名》○リハビリテーション科学部教授／橋本 竜作 リハビリテーション科学部講師／小林 健史
リハビリテーション科学部講師／前田 秀彦 リハビリテーション科学部講師／柳田 早織

【概 要】

歯科治療を受ける患者は、聴覚障害、言語障害、認知症、発声発語障害などの様々な問題を抱える場合がある。そのような患者への対応に必要な言語聴覚障害の基礎について学ぶ。

【全体目的】

- ・ 歯科衛生士に必要な言語聴覚障害の基礎を理解する。

【学修目標】

- ・ 超高齢社会に向けて今後患者数の増大が予測される認知症についての正しい知識を習得する。
- ・ 発声発語障害の原因や治療の基本について正しい知識を修得する。
- ・ 難聴と補聴器について正しい知識を習得する。
- ・ 高齢難聴者とのコミュニケーション方法について正しい知識を習得する。
- ・ 言語発達障害について正しい知識を習得する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 (2	オリエンテーション 高齢期の認知機能障害について	言語聴覚障害の種類と治療法 認知症に関する基礎知識を習得する。 認知症高齢者とのコミュニケーションについて学ぶ。	橋本 竜作
3 (4	発声発語障害について	発声発語障害の原因とタイプについて理解する。 発声発語障害に対する治療の基本について正しい知識を修得する。	柳田 早織
5 (6	難聴と補聴器について	難聴と補聴器について正しい知識を習得する。 高齢難聴者とのコミュニケーション方法について、正しい知識を習得する。	前田 秀彦
7 (8	言語発達障害について	言語発達障害について学ぶ 言語発達障害児の支援の基本について学ぶ	小林 健史

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験100%

【教科書】

教科書は使用せず、各教員ともプリントを配布する。

【参考書】

道 健一編：言語聴覚士のための臨床歯科学・口腔外科学第2版、医歯薬出版
熊倉勇美他編：口腔・中咽頭がんのリハビリテーション、医歯薬出版

【学修の準備】

これまで他の講義で学んだ口腔疾患（口腔がん、口唇口蓋裂、顎変形症など）について復習し、講義に臨むこと。
授業ごとに実施した内容を元に復習をする。（180分）

【実務経験】

橋本竜作（公認心理師）、小林健史（言語聴覚士）、前田秀彦（言語聴覚士、臨床検査技師）、柳田早織（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

臨床現場での実務経験を活かし、歯科衛生士に必要な言語聴覚障害に関する基本的知識について講義する。